

## 編集後記

『戦史研究年報』第7号をお届けいたします。

本号は、防衛研究所創立50周年を節目に、新たな1年目を迎えたということで「装い」を新たにしました。

「論文」は、戦史部員及び研究部員の研究成果4篇を掲載いたしました。このうち3篇は日本陸海軍の航空用兵（運用）思想及び海軍航空の建設を論じたエア・パワーに関するものです。「エア・パワー」は、平成17年度戦争史研究国際フォーラムのテーマとして取り上げる予定であり、これらの論文を通じて多くのご指導やご示唆を期待しております。また、もう1篇は従来あまり研究されていない東チモールの占領統治を論じています。「占領統治」は、軍による「占領軍政」として紛争解決後の安定構築にインプリケーションを与える今日的意義が見出せることを期待しました。

「研究会記録」は、オハイオ州立大学名誉教授ウィリアムソン・マーレー先生の「戦間期における変革と革新」及び元韓国国防大学院教授李鍾學ソラボル軍事研究所長の「日本の西洋軍事理論受容に関する研究」を紹介しております。マーレー先生は、戦争の本質を鋭く突き、RMAが軍事技術に偏するものではなく社会現象としての広範なインパクトをもたらすものであることを示唆しております。また、李先生の戦略的思考の受容性に係わる論文は、これも今日の国際情勢を踏まえた示唆に富むものであります。改めて、掲載を快くお許しいただきました両先生にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

「国際会議参加報告」は、ルーマニアのブカレストで開催された第29回国際軍事史学会大会の概要報告と同大会で発表した研究報告を掲載いたしました。

「史料紹介」は、日露戦争百周年を記念し、また、平成16年度の戦争史研究国際フォーラム「日露戦争」を控えて、秋山真之中将関連史料及び日露戦争における俘虜に関する史料2点を選定し、前号同様写真主体で紹介させていただきました。

「戦史編さん等」は、編さん業務の内容を御理解いただくとともに、どのような体制で何が出来上っていくのかを紹介しております。多くの御助言をいただき、より良いものにするため継続して報告してまいります。

最後に、本号発行のために御協力いただきました関係各位に厚く御礼申し上げ、「編集後記」といたします。

（芳賀 美智雄）